

第12回例会

日時：平成17年11月10日 8:00～18:30

場所：野外研修の車中

出席者：45名 出席率：75%（会員総数：63名、休会3名）

1. 浅川例会副委員長の司会で開会
2. 大野会長の挨拶：10月15日の記念行事開催にあたっての会員の協力・努力に謝辞。本日の研修実施にあたって研修委員会に謝辞。楽しんで勉強させていただく
3. 佐々木幹事の報告
今日の出席者45名。新人会員のため全員名札を着用する。「いちよう祭り」と「市民健康の日」のお手伝いの件で説明
4. 10周年記念事業実行委員会
平原委員長：10月15日の記念行事が成功裏に終わった、特に陸上自衛隊のコンサートが大好評であったと報告。成功に導いた会員の協力・努力に謝辞
立川副委員長（イベント担当）および石井実副委員長（記念誌担当）より詳細な報告と会員からの協力に謝辞
5. 委員会報告
 - 1) 例会委員会：浅川副委員長より、新年会の件は12月例会で決定・発表と報告
 - 2) 情報委員会：橋本委員長より「プロバスだより」の投稿の紹介と、10周年記念事業の特集号を組む計画を報告
 - 3) 会員委員会：野末委員長より、まもなく新入会員が一人増える予定との報告
 - 4) 研修委員会：八木委員長より「いちよう祭り」の手形販売に協力を要請
 - 5) 地域奉仕委員会：委員長および副委員長欠席のため、佐々木幹事よりサロンの準備は着々と進行中との報告
6. スケジュールの説明：研修委員会 鶴田副委員長より本日のスケジュールの詳細説明がなされ、見学場所では2班に別れて行動することになった。
7. 同好会報告
お茶の会：12月の例会は納会で酒が出る、車では来ないこと
囲碁の会：11月上旬の一泊囲碁大会は下山会員が優勝
8. 卓話 下田泰造会員 「とげぬき地蔵御縁起抄」と題し高岩寺の歴史やとげぬき地蔵といわれる所以をお得意の大道芸モードで話された。さらに、「難解熟語・読み方と解説」では最初の見学地近くまで一同ゲーム感覚で大いに楽しませていただいた。（いずれも資料付）
9. 閉会の辞：濱野副会長

平成17年度野外研修

実施日：2005.11.10（木） 参加者：45名

行程：八王子駅南口発（8:00）→ 国立スポーツ科学センター（10:00～12:00）→ 北トピア山海亭（昼食）（12:20～13:20）→ 紙の博物館・北区飛鳥山博物館・渋沢史料館（13:30～15:30）→ とげぬき地蔵（15:40～16:30）→ 八王子駅南口（18:00）

1. 「国立スポーツ科学センター」（北区西が丘）（最寄り駅はJR十条駅）：

日本のスポーツを強くすることを目標に、国際競技力向上の支援のため、日本のトップレベルの選手のトレーニング施設と、スポーツ科学・医学・情報研究の拠点として、2001年4月に設置された。

われわれ一行は、まず4階会議室に案内され、施設紹介のビデオを拝見。その後、3班に別れ見学した。2階のレスリング・フェンシング・ボクシング・ウエイトリフティング練習場、1階の陸上競技実験場、スポーツクリニック、地下1階の競泳プール、射撃練習場、シンクロナイズドスイミングプール、ボート・カヌー実験場。大変素晴らしい施設。2004年のアテネオリンピックで、日本の競技者が史上最多のメダルを獲得すると

いう大活躍を、裏で支援、成功を収めたことは記憶に新しい。

- 2 山海亭で昼食：このレストランは北トピアという、北区が経営するビルの最上階（17階）にあり、大変眺望が良かった。食べたものは「バクダン・ランチ」と言う珍しいもので、納豆・マグロ・おくら・半熟卵を自分で混ぜ合わせ、どんぶりご飯にかけて食べるもの。おいしかった。
- 3 飛鳥山公園には「紙の博物館」「北区飛鳥山博物館」「渋谷史料館」の3館が隣接してあった。一行は2班に分かれて、それぞれ学芸員の案内で見学した。
「北区飛鳥山博物館」北区の自然・歴史・文化に関する展示がある。この地は太古の昔、海でその後陸地化し、役所がおかれ政治の中心であったような。時代が下って豊島氏が支配していたが、太田道灌に滅ぼされた。「豊島郡衙正倉」（としまぐんがしょうそう）と称する年貢米を収めた蔵を、実物大に復元したものがあった。
- 4 「渋谷史料館」日本の近代的経済社会の基礎を築いた渋谷栄一（1840～1931）の生涯と、携わった多方面にわたる事業や人々との交流を、多くの資料によって展示している。人生の契機は、一橋慶喜と出会ったこと、慶喜が第十五代将軍になり栄一も幕臣になったこと。そしてパリ万国博覧会に出席し世界の先端に行く欧州諸国の進んだ社会・経済制度・生産技術に触れ、国民を豊かにする基本を体得したことにあるようだ。更に渋谷庭園内にある歴史的建造物「晩香廬（ばんこうろ）」（清水建設から寄贈されたもので、蒋介石など、大切な客の接待の場として使った）、「青淵文庫（せいえんぶんこ）」を見学した。
- 5 「紙の博物館」わが国の洋紙発祥の地である王子に設立されたものを飛鳥山公園に移転した。古今東西の紙に関する資料を幅広く収集、保存、展示している。古代エジプトのパピルス（英語のpaperの語源）、パーチメント（羊皮紙）、石や金属、絹布、木簡、などの、いろいろな書写材料が展示・説明されていた。紙の原料は主として木の繊維だが、これを取り出すには（1）砕く、（2）煮る、の方法があり、生産工程の展示もあった。
- 6 「とげぬき地蔵」「とげぬき地蔵尊」の名で親しまれているこのお寺は、正式には曹洞宗萬頂山高岩寺。本尊は延命地蔵尊。境内には「洗い観音」があり、病氣や痛いところを洗えば効き目があると言われ、いつも長蛇の列。また、参詣者の圧倒的多数が年配の女性で、「おばあちゃんの原宿」とも言われ、門前町には多くの商店が並び、いつも活況を呈している。
- 7 八王子への帰路の車中ではビール、お酒などが配られ、わいわい、がやがやと盛り上がり、楽しい一日を終えた。

（研修会記録 矢崎安弘）

訃 報

秋山邦博会員は療養中のところ、肺ガンのため11月24日逝去されました。

享年73歳。元NHKアナウンス室長。第7回生涯学習サロンの閉講日（平成15年5月）特別講話「TV放送裏から見れば」は多くの人の心を捉えるものでした。ご厚誼を偲び、謹んでご冥福をお祈りします。

故加藤 寛会員に 叙勲・叙位

亡くなられた平成17年8月22日付で瑞宝双光賞を授与され、正五位に叙せられたことをお知らせします。

投稿 建設業の特色について（特に法規制）

東 山 栄

私は、昭和32年に学業を終えると同時に、建設会社に入社し平成13年に引退するまで、40数年を建設業界で過ごしました。その前半は、企業内の部署を事務系、技術系、営業系に分けて、専ら事務系に所

属し、庶務、会計、労務（安全管理）を担当し、後半は、二つ目の会社の役員として、会社経営に従事致しました。

建設業というのは、人間が生活していく上で必要

な衣、食、住のうち住の部分を担当する職種で、皆さんが極く身近に感じている職業でもあります。

しかし建設業を営むには、実は色々な制約が存在しております。現在の建設業というのは、昭和24年5月24日（法律第100号）に公布され、同年8月20日より施行された、建設業法（以下法という）という法律によって規制されております。

まず、建設業とは、法第2条で『元請け、下請け、その他いかなる名義をもってするかを問わず、建設工事の完成を請負う営業をいう』と定義されております。そして土木工事業（以下工事業を省く）を始め、建築、電気、舗装、造園、大工、左官等28の業種が法律によって定められていて、これらの建設業を営むにはその一つ一つについて許可の取得が必要となります。

これを建設業許可といいまして、一つの都道府県においてのみ営業所を設けて建設業を営む場合は、当該都道府県知事の許可を必要とし、二つ以上の複数の都道府県において営業所を設けて建設業を営むものは、国土交通大臣の許可が必要となります。

建設業許可については、許可申請者についての制約があります。その概略を載せますと、次の事項に該当するものは、許可申請ができません。

- 1) 成年被後見人、被保佐人、又は破産者で復権を得ないもの
- 2) 未成年者でその法定代理人が一定の欠格要件に該当するもの
- 3) 建設業法その他の法律に違反して、その程度が許可基準に抵触するもの

また、建設業にはその請負う工事の金額により、一般建設業と特定建設業の2種類に分けられていて、それぞれ許可の条件が規定されております。

まず、一般建設業の許可条件から申しますと、必ず置かなければならないものに、経営業務の管理責任者という役職があります。

これは、営業取引上対外的に責任を有する地位にあり、経営業務を総食的に管理、執行した経験を有したものであって、建設業を営む法人（個人は本人）の役員、またはこれに準ずるもので、許可を受けようとする一つの業種についての経験が5年以上（二つ以上の業種については7年以上）ある、常勤の役

員（またはこれに準ずるもの）が必要となります。ただし、これは本拠地の営業所（本社等）に置けばよく、その他の営業所（支店等）には、一定の欠格要件に該当しない使用人（支店長等）を置けばよいことになっております。

二つ目に配置しなければならないものに、専らその業務に従事する常勤の専任技術者というのがあります。これは、専門の学科（建築学、土木工学等）を終了したもので、大学、高専卒で3年以上、高校卒で5年以上その他で10年以上の、当該業種に関する実務経験を有するものが専任技術者になります。

なお、1、2級の国家資格（詳細は後記）を有するもの、または国土交通大臣が認定したものは当然に専任技術者になります。

その他、一般建設業については許可申請時に財産的基礎として、500万円の金融機関の預金残高証明書が必要となっております。

次に、特定建設業の許可基準について申しますと、経常業務の管理責任者については、前述の一般建設業と同じ条件です。専任技術者の資格については、一般建設業の専任技術者の資格の上に、更に請負代金4,500万円以上の、当該建設工事に関して2年以上の指導監督的な実務経験を有することか要件となります。ただし1級の国家資格者は、そのまま専任技術者となります。

この他に、特定建設業の中で施工技術の総合性及び普及状況等を考慮して、特に重要な業種である土木工事業（以下工事業を省く）建築、電気、管、鋼構造物（鉄骨等）、舗装、造園の7業種については、指定建設業として、選任技術者の資格をより厳しく要求し、規定しております。即ち、指定建設業においては、専任技術者は1級の国家資格を有しているものでなければなりません。

1級というのは、建築士法でいう一級建築士、建設業法でいう1級の土木施工管理技士（以下、技士の種類のみ記述）建築、電気、管工事、建設機械、造園の各施工管理技士、技術士法による技術士、その他国土交通大臣が1級と同等以上の資格ありと認定したもの（大臣特認）をいいます。

この他に、特定建設業の許可申請をする場合には、資産内容についての制限があり、法人の場合は

直近の決算の確定貸借対照表における資本金2,000万円以上、自己資本4,000万円以上が必要であり、また赤字決算の場合は、その欠損比率が自己資本の20%以上の場合と、流動比率（流動資産と流動負債との割合）が75%以下の場合には、許可が受けられないことになっております。（個人の場合には4,000万円以上の銀行預金残高証明が必要）。

これらは、新規申請時点での規定ですが、建設業許可は5年で更新されますので、更新時の場合についてもこの規定は適用されることになっております（ただし法人のみ）。

さらに、建設工事の請負契約に際して一定金額以上の下請負契約を締結する場合は、特定建設業の許可がなければならない、という規定があります（顧客と直接契約する元請負契約ではない）。これは具体的にいいますと、建設工事を請負う場合、通常はいわゆるゼネコンといわれる元請負業者が、顧客から一式請負います。例えば、建築一式工事（木造、鉄骨、鉄筋コンクリート造住宅等）をゼネコンが請負った場合、ゼネコンはこの工事に関し、設計図書に基づき直接的には、総合的な施工管理、品質管理、安全管理等を行い、ゼネコンの指導監督のもとに、建物を建てる各種作業を行うのは、いわゆる下請業者であります。

即ち、一件の建築工事においては、少なくとも15工種（業種）以上の職人が必要になります。そしてこれらの工種の全部の職人をゼネコンが、直接雇用することは到底不可能な事で、そこで下請負人が各業種ごとに存在することになります。例えば、大工、左官、とび土工、鉄骨、屋根、塗装等その建築工事に必要な業種について、ゼネコンは下請負人と下請負契約を締結して、当該工事の完成を目指すことになります（建築以外の工事についても同様）。

この個々の下請負業者（ただし、一次下請けに限ります）と交わした、下請負契約（外注費）の金額の合計が、建築一式工事においては4,500万円以上、その他の工事においては3,000万円以上となる場合には、特定建設業許可が必要となります。従って一般建設業の下請負契約（外注費）の金額は、その許可条件からいって建築一式工事においては4,500万円未満、その他の工事においては3,000万円未

満が上限ということになります。

ところで、建設工事を受注する場合、必ず建設業許可が必要かという点、実は一定の請負金額、またはその工事の規模によっては、許可を必要としない場合があります。それは、建築一式工事においては、請負代金が1,500万円未満または、延べ面積が150平方メートル未満の木造住宅工事、その他の工事にあつては500万円未満の工事は、建設業の許可が不要となります。

ここで、私ども建設業者の建設市場にとって、重要なウエイトを占めております公共工事について、若干触れさせていただきますと、まず公共工事の競争（指名）入札に参加するには、その前提として毎年決算終了後に、法人（個人）の決算内容（自己資本、利益率、流動比率等）工事実績、安全管理状況、従業員数、技術者数、営業年数等について、知事又は大臣の審査を受けなければなりません。これを経営事項の審査といいます。この審査の結果により、各審査申請の業種ごとに点数（評点）がつけられ、その点数の多寡によって工事業種ごとにランクづけされ、ランク毎に入札に参加する工事の金額が決められます。従って、経営審査の点数の高い業者ほど経営内容の良い業者であり、より大型で高額の工事の受注が見込まれることになります。

以上、建設業の特色と題して述べて参りましたが、この業種ははた目で見るとより相当複雑で、厳しい規制があるわけですが、建設業というのは、建設工事の受注に際して、商慣習として工事着手前の契約の時点で、前渡金として相当高額のお金（30%前後）をお客様からお預かりする訳ですから、勢いそれに携わる建設業者に対して、より厳しい規制を課するのは当然の事かもしれません。

ともあれ、拙論でしたがご理解頂けましたら幸甚に存じます。



創立 10 周年記念

ハロバスだより 特集号

東京八王子プロバスクラブ
編集・発行・情報委員会
2005.12.8

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2005・7～2006・6テーマ『タやけのまちの明日を照らそう』

1 東京八王子プロバスクラブ創立 10 周年記念事業 陸上自衛隊東部方面音楽隊演奏会

2005年 10月 15日（土）14:00～16:00 八王子市民会館

主催：東京八王子プロバスクラブ、共催：東京八王子南ロータリークラブ、後援：八王子市、八王子市教育委員会、（財）八王子市学園都市文化ふれあい財団

演奏会の概要： 八王子市民会館を会場とし、およそ 1600人、ほぼ満員の聴衆を集めての演奏会となった。

14時開会、大野聖二会長の短い挨拶の後第 1 部は上山直三副隊長の指揮でハンガリー舞曲第 5 番、枯葉など 6 曲、そして第 2 部はマーチと共にと題し吉永雅弘隊長の指揮で 7 曲とアンコールに应えての 1 曲が演奏された。第 2 部冒頭には司会者の質問を受ける形で平原実行委員長によるプロバスクラブの紹介が行われた後、フルバンドをバックに隊員 3 名が歌う「プロバス賛歌」が演奏された。

2 記念式典とレセプション・パーティー

2005年 10月 15日（土）17:00～20:00 八王子エルシィ

式典の概要：大高秀夫副委員長の司会により、野口正久記念事業特別顧問の開会のことばに始まり、八木 啓充会員のリードでプロバス賛歌斉唱、来賓紹介、大野聖二会長挨拶、平原俊彦実行委員長の 10 周年の歩みを紹介する挨拶と進んだ。その後、物故会員に黙祷、当プロバスクラブ創設に尽力された八王子南ロータリークラブ杉山友一氏のご挨拶と続いた。来賓の八王子市市長 黒須隆一様、国際ロータリー 2750 地区ガバナー補佐坂本俊雄様、全日本プロバス協議会会長 中村 健様からご挨拶をいただいた。サロン活動のビデオ映写、石井 實実行委員会副委員長の閉会のことばで終了した。

・大野聖二会長挨拶

本日はこのように多数の皆様が私ども東京八王子プロバスクラブ 10 周年祝賀会にご出席下さいまして誠に有難うございます。

私どものプロバスクラブは東京八王子南ロータリークラブの 10 周年記念事業としてご提唱頂き平成 7 年 10 月発足しました。ロータリアンのご推薦による入会候補者と南ロータリークラブ関係者による設立説明会が開催されましたが、大変素晴らしい方々にお集まり頂きプライドも高く、例えロータリーの提唱であっても普通の老人クラブのようになるのでは設立の必要なしとの声が大勢でした。ロータリークラブの基本は奉仕にあることのご理解を願い、社会貢献を中心にするなら良いという条件でご賛同頂きました。社会貢献を目指すことにより、目的意識を持った人達が集まり、若々しく生き甲斐を持って参加出来るクラブになれることが予想されました。計 6 回の設立準備委員会を経て当初会員 3 名によるスタートでした。

八王子は首都東京のベッドタウン的立地条件もあって素晴らしいメンバーが集まったと思います。この人達の豊かな経験と教養を活かす活動として、地域の皆さまにそれらをお伝えすることを考えました。社会教育から生涯学習へと成人教育が検討されている世相のニーズもあり、私は生涯学習は受講者と実践する側の立場に立脚してプランニングすべきであると考え、サロン方式の生涯学習の実現を会員の皆さんにお願いした訳です。

講演の経験はなくてもサロン風なら、プロバスメンバー誰でも担当出来るし、参加者も質問しやすいので意見の交流が可能になる。飲み物代の実費負担をお願いしても、適切な会場を確保し、やゝおしゃれな雰囲気の中でステイタスが高まれば相殺出来る。プロバス会員も自分達の話を聞いて貰えるので喜びとなり勉強意識が高揚し、更には市民のお世話が出来る生き甲斐が得られるのではと一石数鳥の企画であったと自負しております。

サロン会員でプロバスに入会された方達も居られ、今では中心になって活動されています。今後この伝統をどのように引き継ぎ、どのように高めていくかが、東京八王子プロバスクラブのこれからの 10 年に向けられての大きな課題だと思います。今後とも皆さまのご支援をお願い申し上げます。

・平原俊彦実行委員長挨拶 本日は市長を始め各方面より多数のご来賓のご出席を賜わり誠に有難うございます。

近隣のロータリークラブの皆さま、レディース・クラブの皆さま、九州・大阪・京都など遠隔地からもお越し頂

いた私どものお仲間プロバスクラブの皆さま、生涯学習サロンに参加された市民の皆さま、本当によくいらっしました。厚くお礼申し上げます。

先程大野会長がお話し致しましたプロバス生涯学習サロンは、私ども八王子プロバスクラブが設立当初から取組んで参った社会貢献活動であります。皆さまのご支援を得て、昨今では地域社会から認知されるまでに成長しております。本年2月～5月に実施したサロンは第9回目ですが、積み重ねて来たサロンのテーマについてお話したいと思います。

1番多い分野は所謂「歴史」に属するものです。八王子は古い町で万葉集にもその古名が載っておりますし、また近世幕末には新撰組の土方歳三がこの地で活躍するなど数々の挿話に満ちています。それ故に郷土史や古代史は恰好のテーマであり、また最近のアジアの動勢から現代史に係わるテーマも面白い題材となります。これらについて私どもの会員がお話を担当し、サロンを進めております。

次に多い分野は「音楽・映画」で、主に映像を中心に懐かしい曲を聴くなど大変楽しいもので、毎回多くの方が参加されております。また、昨今大きな話題となっている「医療・健康」分野も大きな比重を占め、これまた楽しい「美術」の話や我々は如何に生きるべきかなどの「人生」の話、「自然」や「趣味」に関する話など多くのテーマを取り上げてあります。

幸い過去のサロンは毎回定員一杯のお申込みを頂いており来春も第10回目を挙行すべく現在既に準備を進めております。私どもはこのサロンを中心に今後も「社会貢献」の実をあげて参る所存であります。本日実施した陸上自衛隊によるコンサートもその一環であり、お蔭さまで会場の市民ホールも満席で私どもへの評価も高まったものと確信している次第です。理念の実現に向かって精進を統めて参りますので、今後とも皆さまのご指導ご鞭撻を心からお願い申し上げます。

来賓挨拶

・東京八王子南ロータリークラブ（10周年記念事業実行委員長） 杉山 友一氏

市民会館を満席にしての素晴らしい演奏会でした。フルバンドでのプロバス賛歌演奏は大変良い記念になりました。大野会長、平原実行委員長の挨拶にもありましたが、歴史と伝統を育んできた10年でした。南ロータリークラブの10周年記念事業として八王子にもプロバスクラブを作ろうと同士ともども声を上げ協力して、現在の八王子プロバスクラブを設立したことを大変喜んでます。日本一のプロバスクラブとして発展していただけたらと願っています。

・八王子市市長 黒須 隆一氏

5年前のクラブ創立5周年のつどいにも伺い、八王子には素晴らしい経験や知識を有する先輩がおられるということを知りました。プロバスクラブは社会貢献に尽力されておられますが、その知恵、功績を活用させていただいて八王子市のまちづくりにもご協力をお願いしたい。本日は各地のプロバスクラブの来賓の方が遠方よりご出席ありがとうございます。市を代表する立場で心から歓迎を申し上げます。

・国際ロータリー第2750地区 多摩南グループ ガバナー補佐 坂本 俊雄氏

市民会館での演奏も素晴らしかったが、あの広い会場を観客で一杯に埋めたことを感動し、老人パワーを感じました。プロバスクラブ設立当時の苦労話を聞き、今後も皆様と話し合う機会を持ちプロバスクラブ発展のため協力していきたい。

・全日本プロバス協議会会長 中村 健氏

プロバスクラブ設立時、その後の活躍の内容に触れることが出来、大変感動しました。会長挨拶にもありましたが、クラブとしてのしっかりしたコンセプトを持ち、それを確実に市民のため実行している姿は素晴らしい。私は外国でもプロバスクラブの活動について議論したが、すべて曖昧ではっきりしないまま今日まで来ました。本日八王子の話聞きそれが晴れました。八王子プロバスクラブの活動ぶりを参考に、これから努力していきたい。

レセプション・パーティー

会場を変え、立川富美代副委員長の司会で、石川和昭八王子市教育長のご挨拶の後、プロバスクラブ設立時会長だった東京八王子南ロータリークラブ増田禎司氏の音頭で一同乾杯した。アトラクションとしてオーチョ・フラメンカによるフラメンコ（写真）GuSH（ガッシュ）によるジャズ演奏などがあった。

3 創立10周年記念に思う

・東京八王子プロバスクラブ創立10周年の事業いろいろ 立川 富美代

クラブの皆様には大変ご苦勞様でした。波状攻撃のような事業の展開に皆様を振り回しました。式典などは時々ありますので、皆様は慣れておられるのですが、演奏会を開催して、お客様を市民会館にイッパイにする事などは、殆んど経験のないことではなかったでしょうね。きっと不安と期待とが入り混じった

と思います。

演奏会 10周年をすることに決ったときから、何をしようかとアンテナを高く立てておりました。地域の皆様にプロバスをアピールできるのは演奏会しかないと思ったのですが、人を集められるのは高い出演料のアーティストばかり、たまたま多摩ロータリーの35周年にお招きを頂き、その折に「陸上自衛隊音楽隊」の広報部担当をご紹介頂きました。

これだ！！なんと言っても出演料がただ！！私たちのクラブにただと言う言葉は宝石みたいでした。代表者委員会を立ち上げたばかりで、委員長の平原会員にどうですかと聞いたら、それで行こうと言われ、アタックが始まりました。手紙、メール、電話、あらゆる手立てを考え、許可をとることに専念しました。そのうち「会場」になる市民会館を押さえる時期が来て、出演も決ってないのに10月15日を8人の競合にせり勝って押さえました。今度は会場が決ったからOKしてくれと、何度も何度も頼み込み、やっと正式にOKをもらったのは3月末でした。「これで成功間違いない！！」と確信をもったのでした。

演奏会というのは、入れ物（会場）が決まり、出演者が決ると、殆んど成功することを、長い経験で肌で感じております。その上オソルオソル頼み込んだ「マイクラブソング」、本番で前奏が流れ始めて本当に目頭が熱くなりました。振り返ってみると、自衛隊に頼みはじめて丁度1年半かかっておりました。でも素晴らしい演奏に客席に白いハンカチが動くのを袖で見ていて、本当にこの演奏会で東京八王子プロバスクラブを地域に根差した活動にすることが出来たと満足感でイッパイになりました。

それにしても、担当をお願いした下山会員、「絶対満杯にする」と獅子奮迅の活躍、そしてそれをサポートして頂いた実行委員会の皆様には本当に頭がさがりました。企画して後は「ガンバレー」だけの私にどれほどの力を下さったか、感謝、感謝です。

式典 担当をお願いした鶴田会員のきめの細かい周到な準備に、感謝するというより驚き！という方が当てはまっておりました。やはりサポートの実行委員会の方々の綿密さ、これぞ我がクラブ！でした。市長、教育長お揃いの出席、関東圏、関西と他クラブの皆さまのご出席は本当に嬉しいものでした。それにしても全日本プロバス協議会中村会長は、2日前にお出で頂けることが決り、京王プラザホテルが満杯で、泊めて頂くのに鶴田会員が大変骨を折り、結局高い部屋になり申し訳なかったのですが、でもあの関西人らしい楽しくて長いご挨拶が出来たのだからご勘弁をと言いましょ。皆様さすがで、時間通りのご挨拶、何より司会の大高会員一安心でしたでしょう。

レセプション・パーティー 今回初めてウエルカム・ドリンクを取り入れました。これが大変二重丸でして、皆様演奏会から長い時間拘束をされていまして、乾杯まで時間があっても、赤い顔をして楽しく歓談して待って下さいました。JAZZメンバーはさすがプロ中のプロ、とても楽しませてくれました。特にボーカルの女性は色気もあって中々のもの、ロータリーのオジサマ達が盛んに秋波を送っておりました。そのうち電話番号を聞いてくるかも知れませぬ。

記念誌 石井副委員長を中心に随分校正を重ねられたと思います。10年という年月の積み重ねたものがあふれています。特にサロンのデータは、武田会員のホームページが大きな役割を果たしたのかなと思います。一人一人の400字コメントも各人のカラーがよく出ていて、10周年記念誌の核になっていると思いました。それにしてももう少し予算があれば絶対ハードカバー、本棚を立派に飾るものになったのにと、いささか残念。でも1冊5000円にもなると思うと、我々の手に合うものではないですね。

振り返ると5周年は全く準備なしで展開しました。今回は周到に準備をして進め、お陰さまでクラブ全員が大きな力でこの10周年に取り組みました。シニアであっても皆の智恵と力を結集すれば、こんなに素晴らしい事業ができます。それなりのお金も必要ですが、それだけでないことを証明しました。遠来のお客様が帰りの際に、全国100もクラブがあるけど、こんなクラブは初めてだと言われました。これからは皆で考え、皆で力を合わせてよりよい活動ができたならどんなにか素晴らしい事でしょう。

10周年事業の担当副委員長として心から皆様にありとようと申しあげます。

・記念誌編纂を終えて 石井 實

何の因果か5周年、10周年と2度も記念誌編纂に携わってしまった。本当にご苦労さまのことであつた。5周年誌の時には準備資金や資料もなく、編纂のスケルトンが決定したのは暮れの12月、残り2カ月の勝負であ

創立10周年記念演奏会から



上：陸上自衛隊東部方面音楽隊
のステージ

左：平原実行委員長が
プロバスクラブについて説明

左下：プロバス賛歌演奏

右下：会場（1階）風景



記念式典とレセプション・パーティーから



左：東京八王子プロバスクラブ
大野聖二会長の式典挨拶

下：東京八王子南ロータリークラブ
杉山友一氏の挨拶



来賓挨拶

左上：八王子市長 黒須隆一氏

上左：国際RC第2750地区多摩南RC ガバナー補佐 坂本俊雄氏

上右：全日本プロバス協議会会長 中村 健氏

右上：式典会場、左：乾杯 東京八王子南RC 増田禎司氏

下： アトラクション



ったがスタッフの協働でそれらしいものが作成できた。目玉はクラブ創設に際しご尽力頂いた南RC酢屋善元氏と会長経験者による座談会。予算も乏しく編纂委員による手作りという体験を経て、クラブ創設時の背景や設立準備委員会の経緯が判り、設立後のクラブ運営の経過や問題点に及ぶその内容は、当クラブの歴史を探る貴重な資料となっている。

10周年誌はある会員の意見開陳による「誰のための記念誌」が基本テーマとなり会員自身に夫々主役を務めて貰った。担当セクションの尽力の結果電子化された過去の資料の保持があり、その活用を図ったが結果として技術的な面での課題を残してしまった。独断と偏見から全会員に無理難題をつきつけて実現した会員紹介欄の小文集は、会員各位の個性が具現していて今回の目玉になったと自負している。9月例会で「これが目玉」と吹聴し、会員自身に第3回目校正を依頼したが、今迄2回の校正作業は何のためと思われる程の大量の校正が発生した。口は禍の因、その処理に往生しつつも人間性の本質を垣間見た思いが残ったのだが、今は楽しい思い出となっている。また、5年間という歳月の経過は大きかった。5年前は何でもなかった作業も、今回は根気が続かず、記憶力も減退し、同じ個所を何度も読み返すなど能率も上がらず、能力の限界からこれが最後のご奉公と思った次第である。

10年先の記念誌には、従来以上に歴史の重みが加わってくると予測される。使用する膨大な資料に整合性がなければ、それを加工し纏めるスタッフのみが苦労すること必定。記録の作成保持に当たっては、試行錯誤の上定着した過去の遺産を徒らに無視し、その場限りのキラメキや思いつきに頼るのではなく、過去のデータを分析検討した上で方向性を見出すことが肝要と思料する。10周年記念式典で当クラブに寄せられた多大の評価と期待に報いるには更なる研鑽を加えつつ新たな目標に向かってスタートを切らねばならない。「プロバスは組織」と命題を提起しバトンタッチしたい。

・武士（もののふ）の夢をまどろみつ つ 下山 邦夫

陸自演奏会の録音CDを聴きましたか。素晴らしい録音で当日の音と感動が甦ります。市民会館での公開の演奏会が出来た事、そしてそれを為したプロバスクラブの誇りをしみじみ思い起こします。私は担当者でしたがこんな事は現役の時でもやったことはありません。立川さん大高さん松尾さん方が合唱団の関係で経験がありなので、教えられたとおりのやればよい、いざとなればプロバスクラブの会員諸兄がいるのではないかと考えて引き受けました。事実その通りで会場や広報の準備などすべて立川さん等のご指導と皆さんのご協力の賜物で狙い通りほぼ満席の公開演奏となり、市民の皆さんに良い贈り物が出来、プロバスクラブのプレスティジを立派に高める事が出来ました。式典やレセプションを担当した方の招待客への並々ならぬ準備を尊敬の念をもって伺っていましたが、おたがいに準備してきた事が報われたと共に祝いたい心境です。まさに戦いを終わって、もののふの夢をまどろみつ つ一休みの心境でしょうか。その夢間にあのマーチが快く甦ってくれるでしょう。

・10周年記念事業達成に当たって 5周年からの5年 鶴田 金通

入会が平成12年12月、すぐ翌年の2月から生涯学習サロン、創立5周年の行事が挙行された。知力と品性を持ち合わせた人の集まりは、今迄の会社人間から、別世界に入った感じで強烈なインパクトを受けた。私のような者がこんなところ（良い意味でのこんなところ）に入って良かったのだろうか疑問を抱きながら、来る日来る日の例会に臨んだものだ。こんな心境を変えさせたのが、クラブの同好会であり、酒で語りつくした二次会が、その人の味も理解出来、心がとても楽になり少しはゆとりをもって参加出来る様になった。今は肩書きも名刺も無いいろいろな経歴の持ち主の方とお付き合いさせて戴き開放感に浸っている。

その間、生涯学習サロンの窓口である地域奉仕委員会にも所属し、プロバスクラブの理念とするところをタッチさせて戴き、今回の10周年記念事業には式典等担当の委員を命ぜられ、自分の身の丈より大きな役割を背負う事になった。度重なる会合も、方針が明確にタイミングよく伝達された為、大変動きやすく動けば動く程、クリティカルパスを管理する中で、いろんなデザインを描くことが出来た。随時会員の皆様のご支援を戴き一人ひとりの協力が大きなベクトルとなり記念すべきその日を迎えることが出来た。当日も全会員が役割を担い何のトラブルも無く全てのお客様が無事故無災害で家路に着かれた事に責務を遂行出来、ご出席戴いた皆様から好評を賜り全会員心休まるものがあった。一つの事業を成し遂げるにはどんなに大変な事なのか、創立5周年記念事業に携わった方々の事も重ねて脳裏を駆け巡りました。全会員共通の達成感があり、プロバスクラブの真髓である地域社会への奉仕に対する理念にも少しは市民権が得られたようで、私も八王子を我が町と呼べるような気がする。

・大成功だった 10周年記念事業 下田 泰造

天気予報は 1 日中雨と報じられていたが、プロバス会員の日頃の行いの良さが天に通じたのか、心配していた天気も記念事業終了まで雨も降らず、演奏会や式典、レセプション・パーティーも、大勢のお客様にご来場頂き盛大に開催された。

評価の高い陸上自衛隊東部方面音楽隊の演奏は、あの 1800 人はいる市民会館を埋め尽くした大観衆を捻らせ、まさに 10 周年事業に相応しい企画であった。曲目もバラエティーに富んだ内容で、聴衆をどんどん引きつけて行く演奏に目頭が熱くなったのは私一人ではなかったと思う。

この 10 周年記念事業は、会員一人ひとりがベクトルを合わせ協力しあい、あのすばらしかった演奏会の音のように、大きな成果が得られたのだと思う。

・プロバスクラブ万歳 濱野 幸雄

平成 7 年 10 月 8 日産声を上げた当クラブも今年 10 周年を迎えた。御同慶の至りである。私は初代会員委員長として会員の増強を任された。数は勿論だが、同時に質も重視して私たちの活動が認められ、ステイタスが高まれば、自ずから会員は集まると自惚れていた。3 期目に幹事として会の運営に携わった。会の運営は相応の会費で充実した内容の活動を求められ、当時未成熟であった学習サロンの予算管理に苦労した思い出がある。7 期目は地域奉仕委員長として、サロンの企画・実行に関わった。有能な仲間を支えられて、充実した時を過ごすことが出来た。10 年目は及ばずながら会長を補佐する役を仰せつかり、10 周年記念のドサクサでなんの役にも立っていないと反省している。いずれにせよ、私にとってプロバスは、退職後 38 年ぶりに戻った八王子に馴染む為の近道であった。いろいろなことを経験し、交友の幅も広がり、身体を動かすこと以外に無趣味の私にとって、精神面の活力を得る場となっている。まさにプロバス万歳である。

・歴史をふりかえり 塩澤 迪夫

市内の青少年団体会長をしていた当時、南ロータリークラブ青少年健全育成事業で支援をいただき、市内全地域の子供サッカー教室を 7 年 3 月に開催しプロバスクラブの構想を知った。翌年 2 月、東京八王子南ロータリークラブ 10 周年式典の壇上で高価な優勝カップの贈呈があり、そこに大野会長や立川元会長他多数の知人がメンバーとして出席しており誘いを受けたのが第一歩でした。

14 年 7 月から研修委員長を担当しましたが、還暦はすぎたとはいえ、現職の企業役員と前述の会長職でもあり、出席率が悪く大変迷惑をかけました。当時同好会増設を呼びかけクリエイトホールでの茶会席と富士美術館めぐりから今日のお茶の会が発足した。11 月には、八王子城と小田原城のルーツをさぐる野外研修もあった。理解あるメンバーと、すばらしいプロバスを誇りに思う。

・10 周年に携って 八木 啓充

入会して日も浅く、会の活動にもあまり馴染んでいない小生にとって、今回 10 周年事業に携わることが出来た事は大変な幸運といえます。10 数回に亘った実行委員会で諸先輩に混じり議論し、作業し、行動する機会を得て、プロバスクラブの 10 年の歴史の一端に触れ得た思いがあります。日本各地のプロバスクラブとの交流、各ロータリークラブとのネットワーク、また来場者との関わり、このような人脈は諸先輩の多面的な活動の成果であります。

演奏会、式典、レセプション・パーティーの構成一つとっても、10 年の歴史・経験と新しい発想が旨く調和して構築されています。このような大きな行事は 5 年に一度しか経験できない貴重な機会です。

この経験の基に、新たな実績と歴史を創り上げる責任を感じると共に、次なる 15 周年に向けスタートが今切られたことを実感しているこの頃です。

・素敵な演奏に感激 岩岡 茂之

10 月 15 日午後約 2 時間、吹奏楽の流れに身を置いて、「倅せなひととき」を過ごすことが出来た。訓練の成果を遺憾なく発揮した音質、音量、音速の統一された演奏には、良い音が身体を包み、特に私の好きな「いそしぎ」がテナー・サックスより流れたときは、ジャズコンサートの会場に近い雰囲気を感じ嬉しかった。

後半に演奏されたそれぞれの行進曲も、その特質である強一弱一強の構成が見事に表現され、最後には殆ど耳にしなくなった「軍艦マーチ」を懐かしく思い出深く聴くことが出来た。陸上自衛隊東部方面音楽隊の皆さん、「素敵な演奏、ありがとうございました」。

・記念演奏会の印象 矢崎 安弘

プロバスクラブ創立10周年記念事業の柱として陸上自衛隊音楽隊の演奏会を主催すると聞いたときは、正直、本当に出来るのかしらと感じた。まず思ったのは、1800席を満杯にしようと言うが、それだけの人数を動員するのが難しく思えた。そこで、動員のお手伝いをしなければと思い、ご近所に宣伝したのは勿論、私も、会員200名のシニアPCクラブに関係しており、運良く演奏会直前の時期に総会があったので、そこで大いにPRした。ところで、期日が近づくと準備の詳細が知らされてみると、会員の中には、素人の域を出た、セミプロがいることを実感し、心配はどんどん薄らいでいった次第。演奏会当日になると、見事、客席は満員の盛況。音楽隊も45名と言う大編成で、私もこれだけの人数の吹奏楽団の演奏は初めてで、大感激。演奏会后、「感動した。どうもありがとう」と多くのメールを頂戴した次第。皆さん共々、大成功をお祝いしたいと思います。

・追補（創立10周年記念誌編集後入会会員紹介）



No.91 長谷川 貴訓（はせがわ たかのり）

- | | |
|-------------|---------------------------------------|
| ① H17.10 | ⑤ TEL: 0426-36-6661 FAX: 0426-73-2113 |
| ② S18.1.18 | ⑥ 理想科学工業(株)常務取締役 |
| ③ 東京都 | ⑦ 何より始めは勉強です |
| ④ 〒192-0916 | ⑧ 小さな発明・海中散歩・ピアノ・油絵 |
- 八王子市みなみ野4-32-14

『発想の詩』

何か世の中に無いものを発明しようと決心したとき、はたと困ってしまった。如何したら発明が生まれるのであろうか。そこで、ブレスト法・K法・NM法等の創造工学の手法を試みたが、なかなか発明は出てこない。そんな時、ある発想法の本に載っていた発想の詩を見て、これこそが発明の源泉であると感動したものである。

“～何より始めは勉強です 君が沢山のことを学び、経験すれば、やがて天の高い処から、ヒラメキが訪れるでしょう だがそこは慎重に、君の確かな眼で確かめなさい、それが一夜の夢にならないように～”

爾来、何か新しいことに挑戦するときは、“何より始めは勉強です”をモットーに学ぶことだけは続けてきたつもりです。《学び続ける人生＝生涯学習》がこれからの社会の基本になるとも言われています。経験豊富な人達の集団である八王子プロバスに入会したのを機会に、更に未知な分野の勉強が出来ることを楽しみにしています。

資料：創立10周年記念行事来賓芳名簿（出席者）

八王子市長	黒須隆一様
八王子市教育委員会 教育長	石川和昭様
国際ロータリー第2750地区	
多摩南グループ ガバナー補佐 坂本俊雄様	
	幹事 山下正昭様
東京八王子南ロータリークラブ	会長 鈴木文史様
	10周年記念事業実行委員長 杉山友一様
	プロバスクラブ 設立時会長 増田禎司様
	副会長 広瀬武彦様
	幹事 松村 聡様
	プロバス委員長 遠藤 博様
	プロバス副委員長 千野宗良様
東京八王子西ロータリークラブ	会長 山田司郎様
東京多摩ロータリークラブ	会長 藤井達磨様
	幹事 関戸達哉様
全日本プロバス協議会 会長 中村 健様（大阪プロバスクラブ）	
副会長 内山勝利様、令夫人敏子様（プロバスクラブ京都）	

北部九州プロバス情報センター（6クラブ）

代表 西田田鶴子様（北九州プロバスクラブ）	
東京品川プロバスクラブ	会長 市川信三様
横浜プロバス倶楽部	幹事 加藤 武様
	事務局長 高橋 實様
	情報委員長 西山節雄様
	例会委員 石井保彦様
神奈川横須賀プロバスクラブ	会長 荻島清治様
	副会長 柳 哲以様
鎌倉プロバスクラブ	会長 正山 堯様
	幹事 小川恭助様
	幹事 吉岡英子様
東京多摩プロバスクラブ	会長 蓮池守一様
	副会長 鈴木達夫様
	幹事 村上伸茲様
	業務監査 岡野一馬様